

みるかぎり 波もさわがず 大ふねに 心ものりて 進む今日かな
誰が為に 花は咲くらむ みむ人は すまざるぬる 故郷の花
這ひし跡 さやかにみせて かたつむり いづこに今は 影を潜める
沈みにし 艦はともあれ うたかたと 消えし武夫の をしくもあるか

春風が吹き、南の部屋にまどろめば
思いがけず、夢は海を越え西方へ巡る
大きな都の楼閣は何と壮大なことか
鳥や花はそこかしこで春の光に映えている

ロンドン、ベルリン、あまねく遊覧し、
その文化や制度は燦然として素晴らしい
諸国の風俗を取り上げ、その優劣を区別するなど誰がしよう
日本は日本の良きところを発揮する、それが吾が望みである

夕闇の 空に乱れて 飛ぶ螢 遠き花火を 見るこちする
降る雨の 音さびしくも 聞こゆなり 世のこと思ふ 夜はのねざめに
秋風に 窓うつ雨の さびしさも わが身にしみて 冬近づきぬ
ふり積る 雪にまみれて 群れ遊ぶ こいぬを見れば 寒さ忘るる

イバラのカンザシと煎餅布団との清貧の生活
容姿を艶やかな花で飾ろうとは思ひもしない
朝から夕まで懸命に農業に従事する
来る年も来る年も貧しい家で辛苦を重ねている

秋風に 窓うつ雨の さびしさも わが身にしみて 冬近づきぬ

ふり積る 雪にまみれて 群れ遊ぶ こいぬを見れば 寒さ忘るる

這ひし跡 さやかにみせて かたつむり いづこに今は 影を潜める

沈みにし 艦はともあれ うたかたと 消えし武夫の をしくもあるか